

正誤表

「正かなづかひ 理論と實踐」初版にて、以下の箇所
に誤りがありました。お詫びして訂正致します。

序文 4頁 右から2行目

(誤) そして、漢字をあまり多くない頻度でしか使用し
ない文章・かなをより多く使用する文章を、読みません。

(正) そして、漢字をあまり多くない頻度でしか使用し
ない文章・かなをより多く使用する文章ばかりを読みま
す。

歴史的かなづかひの練習 34頁 左から2行目

(誤) 「知らず」に含まれる否定の助動詞「らず」は、未
然形の「らざる」を思ひ浮かべれば、「づ」とはならず
に、ざ行で活用することが解るでせう。

(正) 「知らず」に含まれる否定の助動詞「らず」は、親
戚の「らざる」を思ひ浮かべれば、「づ」とはならず
に、ざ行で活用することが解るでせう。

楷體新書 54頁

「充」の康熙字典體は上の通りです。

充
(但し、現在一般的な「充」の字形も戦前か
ら用ゐられてきました)

物産展 82頁 1段目 右から3行目

(誤) 最終日、小樽でのフィールドワークで、僕は家族
や馴染みの人へ渡すお土産を拂拭してゐた。

(正) 最終日、小樽でのフィールドワークで、僕は家族
や馴染みの人へ渡すお土産を物色してゐた。

物産展 84頁 1段目 右から4行目

(誤) そのお知らせを電車の釣廣告で見掛ける度に、こ
の「事故」を思ひ出す。

(正) そのお知らせを電車の吊廣告で見掛ける度に、こ
の「事故」を思ひ出す。

大好きよ！おねえさま 109頁 1段目 左から3行目

(誤) まりさん、病室で私の髪に結わいてくださつた、
あの白いリボン、ずつと大切にします。

(正) まりさん、病室で私の髪に結はひてくださつた、
あの白いリボン、ずつと大切にします。